

ヒッタイト語 kapru- の意味について

大 城 光 正

ヒッタイト語名詞kapru-の意味は、印欧比較言語学的な語源解釈からも、また、非印欧語系の借用の観点からも、同語彙の意味を同定することはできていないが、文脈上の解釈から“喉”の意味が推察されている¹⁾。この小論では、従来の観点からの意味の措定ではなく、同語彙が含まれている箇所“統語的”な特徴を検討することによって、同語彙の意味に関する新しい解釈を提示してみたいと思う。

ヒッタイト語の比較構文は、比較を表わす接尾辞の使用が一般的な他の印欧諸言語とは相違して、統語的な手段で表現される²⁾。その際、比較の基準対象の語形は以下の用例(1)、(2)のように、与・位格形(アッカド系表意文字の表記では、アッカド語の前置詞ANA)が使用される。

(1) KUB XXXI 44 II 16-17:

namma-kan anzēl TI-anni UL ŠA BELU-NI TI-tar nakki

“さらに(namma)、我々の(anzēl)生命より(TI-anni:与・位格)我々の(-NI)主人(BELU)の(ŠA)生命の方が(TI-tar)大事(nakki)ではない(UL)のか。”

(2) KUB XIX 29 IV 18-19:

nu-wa-kan ANA ÉRIN(MEŠ)-KA ÉRIN(MEŠ)-YA mekki

ANA ANŠE. KUR. RA(MEŠ)-KA-ma-wa-tta ANŠE. KUR. RA(MEŠ)-YA mekki

“私の(-YA)歩兵は(ÉRIN)あなたの(-KA)歩兵(ÉRIN)より(ANA)多く(mekki)、私の(-YA)戦車兵士は(ANŠE. KUR. RA)あなたの(-KA)戦車兵士(ANŠE. KUR. RA)より(ANA)多い(mekki)。”

しかしながら、ヒッタイト語の資料の中に、上記の用例のような与格形による比較構文ではなく、奪格形による比較構文が唯一例ではあるが認められる。この唯一の用例は書記の誤謬の可能性が当然ではあるが考えられるが、この小論では、同文脈の統語的な分析を

通して同用例の妥当な使用の根拠を明示し、そこから同用例にみられる名詞形kapru-の意味を措定してみたいと思う。

比較の対象が奪格形を有する用例は、Zuwiの祭司文書(古期文書からの後期編纂テキスト:KUB XLIII 53)の中に、以下のようにいくつもの与格形による比較表現の列挙のなかで唯一の例外的な形として認められる³⁾。内容は、魔術師が病気の患者に宿る悪魔を追い払うためにおこなう呪術の中に、代理物(大抵“羊”)の各身体部位と患者の各身体部位の大きさを比較するものである。

(3)KUB XLIII 53 I 19-25:

- | | | |
|-------|--|------------------------|
| 19 | eššari-šet(t)-a eššari GAL-li | [与格:eššari] |
| | SAG.DU-ŠU ANA SAG.DU[-ŠU GAL-li] | [ANA] |
| 20 | KIR ₁₄ -ŠU ANA KIR ₁₄ -ŠU GAL-li | [ANA] |
| | IGI(HI.A)-ŠU ANA IGI(HI.A)-ŠU GAL-li | [ANA] |
| 21 | aiš-šet-a išši GAL-li | [与格:išši] |
| | EME-ŠU ANA EME-ŠU GAL-li | [ANA] |
| 22-23 | kapru-šet-ašta kapruaz GAL-li | [文小辞-ašta, 奪格:kapruaz] |
| | meli-šet-a meliaš GAL-li | [与格:meliaš(pl.)] |
| | iškiš-(š)et-ašta iškiši GAL-li | [文小辞-ašta, 与格:iškiši] |
| 24-25 | [paltan]aš-šit-ašta paltani šalliš | [文小辞-ašta, 与格:paltani] |
| | GABA-ŠU [ANA GABA-ŠU] GAL-li [.....] | [ANA] |

“彼([代理])の体(eššari)は(患者の)体より大きく(GAL-li)、
彼の頭(SAG.DU)は(患者の)頭より大きく、
彼の鼻(KIR₁₄)は(患者の)鼻より大きく、
彼の目(IGI)は(患者の)目より大きく、
彼の口(aiš)は(患者の)口より大きく、
彼の舌(EME)は(患者の)舌より大きく、
彼のkapru- は(患者の)kapru- より大きく、
彼のmeli- は(患者の)meli-(pl.) より大きく、
彼の背筋(iškiš)は(患者の)背筋より大きく、
彼の腕(paltana)は(患者の)腕より大きく⁴⁾、
彼の胸(GABA)は(患者の)胸より大きい。”

上記の用例のなかで、kapru-の用例以外はすべて比較の対象が与格形で表されている。

また、kapru-とiškiš-“背筋”とpaltana-“腕”の用例には、文小辞-aštaが認められる。それゆえ、kapru-の用例は、文小辞-aštaと奪格形の使用という特異な形式であることが理解される。

上記の比較表現の羅列はデタラメに挙げられているのではなく、頭>鼻>目>[耳⁵⁾>]>口>舌>kapru->meli->背筋>腕>胸のように、体(eššari-)のあとは、上位に位置する身体名称の順にほぼ例示されている。そこで、意味が不明確なkapru-とmeli-は、頭部と胴体の間の何らかの身体部位の名称を示すものと考えられる。また、meli-の比較の対象を示す(患者の)meliašは複数与格形であることから、meli-は対の身体部位と考えられ、おそらく左右の首から肩にかかる両肩筋を示唆している⁶⁾。そこで、kapru-は註(1)の文例やこの例示の順から“喉”の意味が思考されてきたのである。

しかしながら、注目すべきは、上記の文例(3)のなかで、文に何らかの場所・位置的な話題(トピック)性に関与する文小辞-ašta(sentence particle)の使用である。この小辞が使用されている文脈はkapru-と“背筋”と“腕”に関する比較構文のみである。文小辞-aštaの機能は他の文小辞と同様に諸説あるが、大体、全体から部分、他との分離的なニュアンスの表出が思考されているので、比較の対象間の視覚的に類別比較の可能性が高いものを示唆しているものと考えられる⁷⁾。つまり、視覚的に類別比較が可能なものは、質量的な比較ではなく、外形上の長短のような比較に関わるものと推察される。“背筋”と“腕”は、頭、鼻、目、口、舌、胸などの部位よりも、この範疇に属する度合いが高いように思われる。さらに、印欧語の与格比較が、一般的な基準に照らして相違の度合い、程度の比較を表出するのに対して、奪格用法(ablativus comparationis)はある物を他の物から分離する比較、より具体的、より数量的な概念の比較に関与しているように思われる⁸⁾。これらの指摘から、kapru-の意味としては、身体の内部部位である“喉”よりも、頭部と胴体で区別され、外形的に長短の具体的な比較が可能な“首(neck)”の方が上記の条件に合致しているように思われる⁹⁾。しかしながら、この格形は後期文書の比較構文において広範に使用されることはなく、ヒットイト語法上あくまでも二次的なものであろう。

註

- 1) 例えば、Friedrich (1952:99 “Kehle(?)”); Giorgieri (1991:69 “gola”); Haas (1994:901 “Kehle?”); HED (vol.3:251 “throat”); Hoffner (1967:24 “throat(?)”); Melchert (1977:215 “throat(?)”); Weitenberg (1984:34 “Kehle(?)”); ただし、Tischler (1982:34 “Nase(?)”); HEG:494 “Nase(?), Kehle(?)”等参照。

“喉”の根拠として、「kapru-を切ることによって生命を断つ」という内容の文例が指摘される。

KBo III 27, 19-21:

uttar-šet DUMU.É.GAL kuiš ħurtalizzi

kapru-ššet ħattantaru na-an aškišši kankandu

“彼の(šet)命令を(uttar)破る(ħurtalizzi)ところの王宮頭官(DUMU.É.GAL)(に)、
彼らは彼の(-šet)kapru-を切り(ħattantaru)、そして彼を(-an)彼の(-ši)門に
(aški)吊るすべし(kankandu)。”

- 2) Cf. IE. suffix: -yes-/ -yos-; -tero- (Szemerényi:1996:192-201), また、ヒッタイト語の比較構文については、Friedrich (1960:127)参照。
- 3) テキスト編集に関しては、Giorgieri(1991)とHaas(1971)参照。
- 4) paltana-の意味は“腕”以外に、“肩”の指摘もある:Boley(1989:52); CHD(79)。
- 5) 古期文書(KBo XVII 17, Vs. 9')には、目(IGI)と口(aiš)に関する文例の間に、GESTU “耳”に関する一文が挿入されている:
- 6) meli-の意味については、“首”(Haas [1991:901 “Hals(?)”]; Giorgieri [1991:69 “collo”]), さらに、“a pair of superficial lymphatic glands directly below the jaw” (CHD:p.250)等も参照のこと。
- 7) 文小辞の機能については、Boley(1989), Carruba(1969;1985), Josephson(1972), Oshiro(1990)等参照のこと。
- 8) Krahe (1972:107-108), Lehmann (1974:195-196)等参照。
- 9) なお、註(1)の“kapru-を切る”の用例の“kapru-”とは、生命を断つための切断であるので、内部の身体部位の“喉”ではなく、“喉首(neck)”を指すと考えるべきであろう。

参考文献

- Boley, J., 1989, *The Sentence Particles and the Place Words in Old and Middle Hittite*, Innsbruck.
- Carruba, O., 1969, *Die Satzeinleitenden Partikeln in den indogermanischen Sprachen Anatoliens*, Roma.
- , 1985, “Die anatolischen Partikel der Satzeinleitung”, *Grammatische Kategorien, Funktion und Geschichte*, Wiesbaden, 79-98.
- CHD: 1980~, *Chicago Hittite Dictionary*, Chicago.
- Friedrich, J., 1952, *Hethitisches Wörterbuch*, Heidelberg.
- , 1960, *Hethitisches Elementarbuch I*, Heidelberg.
- Giorgieri, M., 1991, “Un rituale per Labarna-Hattušili”, *SMEA* 29, 47-98.
- Haas, V., 1971, “Ein hethitisches Beschwörungsmotiv aus Kizzuwatna seine

- Herkunft und Wanderung", *Or* 40, 410-430.
- , 1994, *Geschichte der Hethitischen Religion*, Leiden.
- Hoffner, H. A., 1967, *An English-Hittite Glossary* (RHA XXV), Paris.
- Josephson, J., 1972, *The Function of the Sentence Particles in Old and Middle Hittite*, Uppsala.
- Krahe, H., 1972, *Grundzüge der Vergleichenden Syntax der indogermanischen Sprachen*, Innsbruck.
- Lehmann, W. P., 1974, *Proto-Indo-European Syntax*, Austin.
- Melchert, H. C., 1977, *Ablative and Instrumental in Hittite*, Harvard Univ. Diss.
- Oshiro, T., 1990, "The function of the sentence particle *-an* in Old Hittite", *Folia Linguistica Historica* XI/1-2, 3-10.
- Puhvel, J., 1984~, *Hittite Etymological Dictionary* (HED), Mouton.
- Szemerényi, O., 1996, *Introduction to Indo-European Linguistics*, Oxford.
- Tischler, J., 1982, *Hethitisch-Deutsches Wörterverzeichnis*, Innsbruck.
- , 1983~, *Hethitisches Etymologisches Glossar* (HEG), Innsbruck.
- Weitenberg, J. J. S., 1984, *Die Hethitischen U-Stämme*, Amsterdam.